

拝啓 今年も早や 12 月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、すっかり落ち葉の道になりました。

今回も、「小西芳之助先生金曜会語録」からの引用の第 14 回目です。今回の部分は、昭和 42 年から 44 年頃同志会の金曜会に出席された時の語録です。昭和 44 年の 1 月には、東大安田講堂の全学連籠城事件があった頃です。今回の語録の中にも、感銘深い言葉がたくさん出ています。「力は天国へ帰るという望みから出てくる」というのは小西先生が最も強調される言葉です。

12 月 4、5 日は、津山に出かけ、鉄道マニアであった故土岐隆が約 30 年間分保存していた 2 種類の鉄道雑誌を北海道など 3 つの鉄道博物館に段ボール箱 60 箱ほど送るという作業をしました。11 月 28 日（日）朝の散歩のとき、胸が締め付けられるような感じがしたので、翌日かかりつけのクリニックに行き、さらに循環器に詳しい近所のお医者さんを紹介して頂いて、津山から帰って、12 月 7 日に診察に行きました。心電図をみて、すぐ昭和大学病院心臓カテーテル室担当医あてに紹介状を欠いて下さり、12 月 8 日に昭和大学病院に行きましたところ、5 種類ほどの検査をして、今日入院、明日ステントの手術しますという診断（狭心症）で驚きました。12 月 9 日午後手術、手首からカテーテルを入れ心臓冠動脈の細くなったところへステントという血管を膨らませる部品を留置しました。手術は、部分麻酔で 1 時間 30 分、ほとんど痛みもなく終わり、翌日退院しました。大した痛みでもなかったのに、最初に心電図で異常を見つけ昭和大学病院に紹介状を書いて下さった先生、昭和大学病院では、即日入院の診断、手術をして下さったお医者さん達のチームワークの良さ、設備のよさに感謝しました。今はすっかり通常の生活に戻っています。12 月 23 日は、陣馬山に登山に行きました。

昭和 32 年 12 月南原先生は、郷里の相生小学校で挨拶中、胸の痛みを覚えられ、心筋梗塞と診断され、引田町で 2 カ月絶対安静にして療養されることになりましたが、おそらく私のはその一步手前だったのでしょう。今では、ステント留置手術で、2 泊 3 日の入院で済むわけですから、ものすごい医学の進歩です。気づくのが遅れ、登山中とか旅行中に発作が起きていたら重大な病気になるところでした。皆様に感謝し、私自身も、これから少し仕事を減らし、コレステロールをためないよう食事に気をつけるよう決心しました。

今年も年の暮となり、1 年がまもなく終わる頃となりました。一日一日を大切に、毎日を過ごしていきたいと思えます。皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成 27 年 12 月 25 日

山口周三

エンカウンター of 読者各位